



広報 No.23

2013年10月

秋号



『自分を錆びさせないように』

団長 大森利治



暑いあつい夏がやっと去った感じが致します。今年の異常と言える気象と10月半ばまでの夏日といった厳しい環境条件をクリアしてこられた皆様方は、きっと自分をコントロールする術を心得ておられるのでしょうか。同じように、寒さへの対処にも準備怠りなく、年末の「歓喜の歌」を歌いあげようではありませんか。

さて、先般催された大阪市コミュニティ音楽祭出演の皆様、お疲れ様でした。他の多くの合唱団と交わることは、色々と刺激になっていいものですね。我が合唱団の特徴とか個性を考える機会にもなりましたね。ある先生が紹介されていたのですが、ひらの混声合唱団は真面目な合唱団だそうです。しかし、それだけでは魅力に欠けるという気がします。如何でしょうか。私たちは再来年創立15周年を迎えます。その時には多くの団員さんはそれなりの年齢になられています。ここで、もうひと踏ん張りをお願いする意味でも、魅力あふれる個性を持った合唱団になるよう考えようではありませんか。その手始めに、Xmasコンサートと同じく、来春もう一本の支柱を建てたいと思います。私達の手で作上げる音楽会です。その為には皆様方一人ひとりのパワーが必要になってまいります。

ところで、皆様方は鉄のような金属類は錆びて細まるということはご存知ですね。私達の肉体も鍛えないでほっておくと錆が来て細まるものです。鉄類は自ら錆落としてはできません。私達はというと、毎週休まず声を出し、多くの筋肉と脳を鍛えて自ら錆を落としているのです。その結果、あまり自覚されていないと思いますが、皆さん輝いておられますよ。大概の人々は何歳になっても輝きたいと思っているものです。さあみなさん！自分を錆びさせないようにして“これからももっと輝きましょう”

第3回大阪市コミュニティ合唱祭



「第3回大阪市コミュニティ合唱祭」が今年も大盛況のうちに終了しました。

大阪市の8つの区民混声合唱団が個性豊かに発表する様子に、感動と刺激をたくさんもらいました。友情出演の飯山混声合唱団さんも少人数ながら素晴らしいハーモニーと響きで会場は魅了されました。

合唱祭を企画・運営をしていただいた方、中塚先生、旭区民合唱団リリオ、他関係各位の皆様に厚くお礼申し上げます。



情感たっぷりに歌いきりました♪

私ら本番に強いんですわ

(写真は旭区リリオの山田英作氏の撮影です)

「楽しかったね、合唱祭」

アルト 樽井由美子

「歌声あふれるまち」になったらいいな！のテーマのもと、大阪市コミュニティ合唱祭に参加致し、楽しい一日でした。

合唱祭のための練習はあまりできなかったものの、本番に強い「ひらの混声合唱団」で、会場の音響の良さに助けられて、自信を持って歌うことができました。

歌い終わりロビーに出ると、他の合唱団の男性が「平野の方ですね。どのくらいの練習量なのですか？素晴らしい歌声でしたよ。」と言って下さり、うれしい思いでした。

見に来てくれた主人に感想を尋ねると、「とても上手だったよ。『滞』という組曲も素晴らしいね。ここだけの発表に終わらせず、大阪全体に広げてゆくといいね。」とのことでした。

合唱祭後の親睦会は大変盛り上がり、初参加の私は「負けてられないわ！ひら混は来年ゆかたでも着て河内音頭でも踊らなければ！！」とやる気が湧いて来ました。

合同合唱 混声合唱のための組曲「滞」



「滞」を聴いて

バス 太田恒昭

合唱祭に「滞」を歌おうと誘われたが、気が進まず参加しなかった。ところが、演奏が始まって衝撃を受けた。何という曲のスケールの大きさ、豊かなリズム、メロディー、ハーモニー。第1楽章から第4楽章まで順に起承転結が整い、本当に素晴らしいできばえだった。

オーケストラ役の「STAGEA」の多種多様の音が合唱団を見事にリードしていた。8つの混声合唱団も中塚先生の指揮で一つに纏まり、まるで「生きもの」のように舞台狭しと踊り狂った。すばらしい！！



中塚先生とコミュニティ合唱団の方々に **ブラボー！**



「素晴らしい！合唱祭！親睦会！」

ソプラノ 笹田龍代

第3回コミュニティ合唱祭に参加致しました。

各合唱団の洗練された歌、趣向をこらされたパフォーマンスなど、素晴らしいステージでした。毎年参加をしていますが、年々盛り上がりを感じ、参加できることに感謝しております。

2部の『滞』は、皆さんよく練習され、一体感がありました。私は三楽章の「激流」が好きです。歌詞もメロディーも胸にジーンとくるものがあります。私は練習にあまり出席できなかったのですが、客席で拝聴しましたが、得した気分でした。

プログラム終了後の親睦会では、飲み物やお料理を戴きながら、各合唱団のアイデアいっぱいの余興も素晴らしく、プロのような歌唱力・表現力に感銘を受けました。

旭区リリオの皆さんやいろいろとお世話くださった方々にお礼を申し上げます。

とても楽しい一日でした。

来年も楽しみにしております。



Ave Maria〜♪♪♪さっそうと歌いながら登場



音程、酔ってない??



あ〜楽しかった！
写っていない方、ごめんなさい。

お知らせ

「ひらの混声合唱団」で検索すると、過去の合唱録画を視聴できます。活用ください。

◆今後の行事

クリスマスコンサート開催

・延原先生によるご指導

一回目指導日：2013年11月20日(水)

二回目指導日：2013年12月11日(水)

今年は合唱団が歌う曲が多く、二回ご指導いただくこととなりました。

・クリスマスコンサート

リハーサル：2013年12月18日(水)

本番：2013年12月19日(木) 午後7時開演

・延原先生オーボエ独奏

今年は、延原先生が「シューベルト作曲アヴェマリア」と「カッチーニ作曲アヴェマリア」の2曲を演奏していただけることとなりました。

延原先生の独奏を聴かせていただける機会が少ないと思いますので、楽しみです。

新春懇親会

2014年1月8日(水) 平野区民センター

ミュージックフェスタ平野2014[仮称]開催

正式名称はまだ決まっています。

来年2014年3月15日(土) 午後2時開演

ひらの混声合唱団と先生方(藤田先生、葉谷先生、中塚先生)のソロ演奏の構成で行います。

演目等詳細はこれから詰めていきますが、混声合唱曲8曲前後、男声合唱曲4曲程度を計画しています。男声合唱は、初デビューのアカペラとなる予定です。ハードルが高いですが、男性諸君、音取りCDで自主練習をしっかりと行ってください。頑張りましょう。

◆選曲小委員会より

ミュージックフェスタ平野2014[仮称]の発表曲は、下記の数曲を検討しています。今まで練習してきた曲ですので、思い出しておいてください。

1) 混声合唱曲

中田喜直『日本の四季の歌』から「早春賦」、「夏の思い出」、「雪のふるまち」など、合唱曲集『朧月夜』から「紅葉」、「里の秋」など

2) 男性合唱曲

「いざ起て戦人よ」(グラナハム作曲)、「ウ・ボーイ」(スロバキア民謡、福永陽一郎編曲)、「フィンランディア」(シベリウス作曲)、「はるかな友に」(磯部 倅 作詞・作曲)

◆メディア小委員会より

- ・ホームページの練習日程表を更新
- ・YouTube 視聴

コーヒーブレイク

今回は、今度のクリスマスコンサートで演奏する「アヴェマリア」特集についての余談です。

「アヴェマリア」は実に多くの作曲家が曲を残しています。世にいう三大「アヴェマリア」は、シューベルト、バッハ・グノー、カッチーニ作曲の「アヴェマリア」です。

“バッハ・グノー”の「アヴェマリア」は、なぜ二人の作曲家併記なのか疑問に思いませんか？

グノーはバッハの「平均律クラヴィーア曲集第1巻」の有名なハ長調の前奏曲を聴いて「この美しいピアノ曲に歌を付けてみてはどうか」と考え、伴奏部分はバッハの曲をほぼそのまま使い、そこに「アヴェ・マリア」の歌と詞を加えたのです。曲を作ったのはグノーといえどグノーなのだが、この優しいメロディーはすでにバッハのオリジナルのなかに隠れていたものだからグノー作曲と呼ぶのはためらわれる。一方、バッハのほうはこの曲を「アヴェマリア」のつもりで書いたわけではない。というわけで二人の作曲の併記となっています。カッチーニの「アヴェマリア」は、さらに問題作のようです。なにしろこの曲はカッチーニの作曲ではないのだから。カッチーニは16～17世紀を生きたイタリア初期バロック期の作曲家です。ところがこの曲はそんな古い時代の作品には聴こえない、ずっとロマンティックで現代的だ。近年、この曲の(たぶん)本当の作曲者が判明した。ソ連の音楽家ヴァヴィロフという人が1970年代にあえて作者不詳の曲として発表したものが誤ってカッチーニ作として定着したということらしい。私は、カッチーニの「アヴェマリア」が一番好きなのだが……。この記事を読んで、「夢が壊れた。この話、知らなかった方が良かった」と言うロマンチストの方には、ごめんなさいね。(後藤 記)

※飯尾洋一氏(音楽評論家、音楽ジャーナリスト)の記事、ウィキペディア等を参考にしました。

<編集後記>

団だより作成にご協力頂いた皆様、ありがとうございました。

コミュニティ合唱祭も終わり、皆さんにおかれましては、メインイベントのクリスマスコンサートに向けて、いよいよエンジン全開モードになっていることでしょうか。合唱では生身の体(喉、声帯)が楽器なのですが、意外と大切に扱っていないのではないのでしょうか。季節の変わり目は体調を崩しやすいです。特に、風邪はもっとも声帯を痛めます。風邪ひかないよう細心の注意を払い、万全の体調で本番をむかえようではありませんか。(萩原・後藤)